

2年間で相談110件超

アダルトビデオ(AV)の出演をめぐる、プロダクションと若い女性とのトラブルが増えている。解決を支援する任意団体「ポルノ被害と性暴力を考える会」へ寄せられた相談数は、この2年間で110件超。だまされて契約させられ、意に反した撮影が行われたとの内容が2割以上だった。

AV出演トラブル増加

団体によると、侮辱的な撮影によるショックで自殺した相談者もいた。

相談はホームページからメールで受け付けており、7割が18歳から20代前半の女性から。男性からも数件あった。関東を中心に北海道や東北、名古屋、大阪、福岡からも相談があり、出張面談もしている。

相談件数の2割以上を占めた「意に反した撮影」とは、タレントの仕事などはスカウトにだまされて契約し、出演を強要されたとい

うもの。具体的な内容を知らされずに契約してしまったため撮影を断りたいという相談や、販売された映像の回収を希望するケースも多い。

団体は2009年に発足し、東京を拠点に活動。ホームページの内容を充実させて認知度が上がった最近2年で相談が増え、14年は32件、15年は80件に上った。約10人の相談員がメールや電話、面談で対応する。

スーム

アダルトビデオ 成人向けビデオ映像で、頭文字を取ってAVと呼ばれる。現在の市場規模は約500億円とされる。一般家庭にビデオデッキが普及し始めた1980年代に、成人向け写真雑誌を作っていた会社などが発売。レンタルビデオ店の増加に伴ってメーカーや発売本数が増え、DVDやブルーレイに加え、現在はインターネットの動画配信も多い。女優の出演料は1本につき15万〜300万円とい

AV出演をめぐるトラブルの例

路上など 女性 モデルの仕事があるよ スカウト

事務所 署名してね AV出演契約書 宣伝材料としてトップレス写真も撮影

やっぱり断りたい 違約金を払え プロダクション

「だまされて契約」2割

決に至ったが、映像が広く流通して回収できないなど困難な事例もある。

昨年9月には、AV出演を拒否した20代女性がプロダクションに違約金約2400万



「ポルノ被害と性暴力を考える会」が入手した契約書面(大阪市)

円を請求された訴訟の判決 以上のAV映像を審査する業断が難しい面もある」と話し、東京地裁が「本人の意思 界の自主規制団体の担当者はに反した出演は許されない」として請求を棄却。団体は「契約時の問題は関知していない。行き過ぎた表現は指摘 える会」相談用メールアドレスも支援していた。 するが、映像では意に反した スはpaps@paps-jp.org 年間で約110社、1万本 撮影か、出演者の演技かの判

「助けてください」。ノートパソコンの画面に切実な相談がつづられていた。AVの出演トラブルの相談に乗る任意団体「ポルノ被害と性暴力を考える会」の相談員金尻力ズ(34)が昨年11月、差出人の個人情報伏せる形で、会へ届いたメールを見せてくれた。

平日の午後10時、東京都内の喫茶店。隣では別の相談員の携帯電話が鳴る。継続的に連絡してくる女性の相談に何時でも対応する。「最初の話と違ってAV撮影だった」「侮辱的な映像が発売されてしまった」。切迫した内容ばかりだ。

プロダクションの事務所に乗り込んで直接交渉の末に契約を解除した経験や、相談者の実家に押し掛けた関係者を警察と連携して追い返した実績もある。解決できない場合は心理的な支援を続ける。

金尻さんは「プロダクションは女性の心理を知り尽くし、悪徳商法のようにおだてたり脅したりして契約へ追い込む。『親や友達に絶対はれない』とろそをつくことも多い」と手口を説明した。

それによると、スカウトはモデルやタレントの仕事と偽って女性を事務所へ誘導。宣伝材料として私服での写真撮影を始め、最終的に「芸能界では当たり前」などとトップレス写真の撮影

心理知り尽くす 標的は「真面目な女の子」

に持ち込む。威圧的な役となだめ役があり、出演契約書に署名を迫る。長時間の説得に疲れて署名に納得すると、後日断ろうとしても違約金の支払いを迫られる。乱暴して脅した悪質な例も。

会が入手した契約書面には「撮影のため選定したスタッフの指示に従うものとし、演出・撮影方法について一切異議申し立てをいたしません」とある。こうした条項を基に侮辱的な撮影をする例が多い。

ある女性は複数本契約の最後の出演で、説明なく集団で乱暴された。両親と一緒に会に相談したが、精神的に不安定になり自殺したという。

金尻さんによると、標的になるのは「地方から都会に出たばかりなど、社会経験がほとんどない若い女の子で『憧れていた芸能界に入れる』と一度は喜んでしまう。AVと知り、親に迷惑を掛けずに断ろうとするような真面目な女の子が狙われ、最終的には押し切られてしまう」。特定のプロダクションだけでなく、主要各社についての相談を受けているという。

団体の世話人の宮本節子(72)は「自ら応募するなど、自身の意思でAV女優になった方もいると思う」と断った上で問い掛けた。「裏で苦しむ女性がいる現状を知っても、皆さんは『觀賞』を続けますか」